

朝日大学大学院

経営学研究科 情報管理学専攻

博士前期課程・博士後期課程
(昼夜開講制・ Semester制)



DOCTORAL PROGRAM IN INFORMATION MANAGEMENT SCIENCES
GRADUATE SCHOOL OF BUSINESS ADMINISTRATION
ASAHI UNIVERSITY

建学の精神

本学の建学の精神は、国際未来社会を切り開く社会性と創造性、そして、人類普遍の人間の知性に富む人間を育成することにある。

社会性について

人類共存の理念は、今や地球の資源・環境問題をはじめ高齢化社会に伴う労働問題、先進国の国際経済問題、発展途上国の社会経済問題など、解決すべき諸問題に直面している。これらの課題と取り組み、人類の繁栄と幸福を推進するため、国際性と社会性に富む人間、和を重んずる心豊かな人間を育成する。

創造性について

人類は、科学・技術のめざましい発展により、物質的豊かさを獲得したが、この科学・技術の発展はまた、豊かな人間性の涵養に資するものでなくてはならない。

先端的科学の進歩と豊かな人間性との調和を図るため人類は創造的英知を発揮する必要がある。

本学は、このため自然科学と人文・社会科学、その他芸術との学際的協力により、専門的かつ総合的な教育・研究活動を推進する。

人間的知性について

高度な産業化・情報化の社会を迎えて、人間の生活様式も価値観も激変している。この際、科学・技術の健全な発達を図る反面、技術の独走が警戒される。従って人類普遍の理念としての人間性の発揚を志し、自己を確立し、人権と自由を尊重する調和ある国際未来社会を建設する必要のため、新しい人間的知性の涵養を企図するものである。

研究科の趣旨

1995年4月の開設以来、朝日大学大学院経営学研究科は、複数の学問分野にわたる科目を開講してきました。経営環境を取り巻く経済・情報分野における時代の変化に伴い、科目の新規開講や再編成などがありましたが、一貫して「情報管理能力を高めることが、明確な目標達成志向型の経営能力を高める」という考えに基づいて、カリキュラムを編成し実施してまいりました。その特徴は、学際的な教育・研究の中で、経営の未知の領域に挑むことのできる複眼的な物の見方と思考方法を身につけてもらうことにあります。

近年の時代情勢の変化により、経営情報を取り巻く環境は複雑化し、実際の経営場面での問題が1つの学問分野に収まらないという状況が生じてきました。本研究科では2013年度から、実際の業務における課題を解決するために、複数の教員の元で集中的な研究指導を受けることが可能な「プロジェクト研究」を設置することになりました。一方で、指導教員の元で集中した研究指導による問題解決を行う従来型の研究を「専門研究」と位置づけ、特定の研究テーマを深化させて追求することも可能です。

1) プロジェクト研究

「グローバルロジスティクス」「観光地域経営」「クライシスマネジメント」の3つの学問領域を研究テーマとします。特別選抜入試で受験していただきます。入学後、課題の解決に最適な教員配置により、複数の教員から実践的な研究指導を行います。

2) 専門研究

各指導教員の研究領域に基づいて、専門的で深化した研究課題の解決を行います。入試時に、研究指導を受けたい指導教員を選択します。全ての入試区分（一般・外国人留学生、社会人、特別選抜）で受験することが可能です。

プロジェクト研究

グローバルロジスティクス

岐阜から日本全国へ、そして世界へ！

岐阜県は本州のほぼ中央に位置し、物流の拠点として昔から栄えてきました。このような岐阜の地であるため、物流拠点を置く企業は多いです。

本プロジェクトはこのような地域的な優位性を持つ岐阜の物流拠点が日本全国、そして世界の物流拠点となるために必要な問題を探り、解決していくとともに物流の未来を考えます。具体的には、地域物流の効率化、高度化には、荷主、物流業者、そして行政・地域の動向を地域市場の視点から捉え、荷主企業の実態や意向、対応する市場の核となる物流業者の課題等を探るロジスティクス研究が不可欠となります。

グローバルな視点での需給両者の比較分析を踏まえ、これからの市場の効率化、高度化の課題、方途を追求します。

観光地域経営

観光リピータを呼び覚ます

地域の“誇り”を取り戻そう！

本プロジェクトでは、短期的な観光客を呼び込む観光施策に留まらず、多くの人が継続的にその地を訪れるための地域作りの方法について研究します。

最終的には、地域が誇りを取り戻し、持続的に発展していくための施策プログラム「岐阜朝日モデル」の構築と適用を目指します。

地域起こしのために観光地としてのアピールを成功させるためには、立地や観光資源・資金力などの他に、地元の人々が地域に対して抱く“誇り”の強さが必要です。ニーズに合わない観光客に迎合した呼び物作りで、結局は「数多い観光地の一つ」として忘れ去られる地域ではなく、誇りを持って観光客に接することのできる地域作りを研究します。

クライシスマネジメント

東日本大震災はクライシスに対する我々の認識を覆しました。企業活動に必要な顧客データや商取引に関する情報は、ネットを通じてやり取りすることが当たり前となりましたが、その情報の保護や素早い復旧には、これまでとは違ったアプローチで対策を考えることが必要です。

本プロジェクトでは、企業活動におけるクライシスを体系化し、想定内、想定外の災害がもたらす被害と必要な対策について研究します。そして、災害に強いだけでなく、柔軟で迅速な復旧を可能とする情報通信ネットワークの技術や構築法について議論します。

具体的には、事前の減災策や事後の復旧策、災害後の復旧手順としての情報・人・物について考え、素早い復旧のために考えるべきことについて研究します。

教員紹介

【経営学研究科長】



奥山 徹 情報ネットワーク特論 I・II

インターネットに代表される情報通信ネットワークの研究をしています。
本研究室では情報ネットワークのプロトコルとサービス体系や、情報ネットワークの利用に関する研究、インターネットの教育利用に関する研究、インターネット上のアプリケーションプログラムの開発などを行っています。
また、情報セキュリティについても研究しています。



矢守 恭子 情報管理学特論 I・II (クライシスマネジメントコーディネータ)

情報通信ネットワークは有線・無線共には著しい発展を遂げ、我々の生活になくてはならないものになりました。これらの通信ネットワークは有限な資源であり、効率的な運用管理が不可欠です。本研究室では、通信資源の理想的な配分に経済原理を導入し、利用者と通信事業者の両者が満足するような通信ネットワークやサービスについて研究しています。



服部 徳秀 情報科学特論 I・II

新たな要求に対応して過去に構築したプログラムを再構築するなどソフトウェアシステムのメンテナンスにおいて、過去の不完全な変更により資料とプログラムが整合しないなどの理由で、ソースコードの解析が必要なことがあります。この解析には大変な労力が必要です。このようなメンテナンスを楽にしていく方法を一緒に考えていきましょう。



土井 義夫 戦略物流特論 I・II (グローバルロジスティクスコーディネータ)

物流を大学院で学ぶことは、物流実務の改善課題や経営戦略の経営課題を対象とし、職能レベルに応じた課題設定と、対応策に必要な手法の開発を中心に取り組むことになります。
具体的には、地域の物流活動に関わるテーマ全般、企業における物流戦略と運用に関わる研究、商慣行や食品物流など業種を特定した対応策の検討、を通じて物流システムの世界に挑戦してみませんか。



大濱賢一朗 金融システム特論 I・II

現実の社会の動きや問題を把握し、解決するためには、理論や知識が必要である一方で、それらがあっても完全な解決には至りません。大学院でしっかりとした経済学の論理を身に付けて、経済学が実社会で果たせる役割を共に議論できればと考えています。



森下伊三男 情報処理特論 I・II

高度情報化した社会には多量で多様な品質・形態をもった情報が溢れています。それらの情報に対して如何に向き合い、どのように処理をしていけば良いのか。さらに、意思決定に役立つ結果をどのように導き出していけば良いのか。様々な場面で活用できる情報処理について考え方を身につけ、また、より具体的な問題に対する情報や時系列情報に対して最適な処理手段を一緒に考えていきましょう。



荒深 友良 経営組織特論 I・II

現代社会では、企業活動をはじめ、私たちの諸活動の規模や範囲が拡大し、複雑になっています。こうした中、活動の主体としての「組織」の重要性はますます高まって行くものと考えられます。組織について理解し、そして組織の運営方法を学習することは、豊かな社会を築くための必要条件です。組織理論を共に学び、そして実社会での実践に応用する方法について一緒に考えていきましょう。



畦地真太郎 知識経営特論 I・II (観光地域経営コーディネータ)

社会における人々の動きを、実験計画法を用いたデータの収集と分析を通じて、心理学的側面から分析します。人が持つイメージの内的構造分析（例えば商品に対する印象の好悪など）を得意としますが、組織における人間関係や動機づけ、判断の偏向に対する規定因など、学生の興味関心に応じた幅広い研究指導を行います。



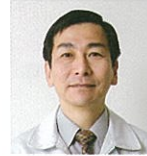
加藤 里美 人的資源管理特論 I・II

人的資源管理（Human Resource Management：HRM）とは、企業と従業員（人的資源）との関係のあり方に影響を与える経営の意思決定や行動の全てを統轄しているものです。従って HRM は、組織の統合、従業員のコミットメント、職場の柔軟性、労働の質を最大化していかなくてはなりません。本研究室では、多様な「ヒト」＝女性、専門職、外国人労働者等一のマネジメントの仕組みを様々な側面から実証的に分析していきます。



小島 信史 税務会計特論 I・II

わが国の制度会計は、いわゆる会計ビッグバンにより、飛躍的な発展を遂げたといわれています。一方、海外では、会計基準の収斂（コンバージェンス）の動きが、さらに加速しています。統一化へと向かう会計基準の国際的な流れをうかがいつつ、変貌著しいわが国の制度会計を理論的かつ実践的に考察し、その将来を一緒に考えていきましょう。



荻久保嘉章 中小企業特論 I・II

地元の資源と知識・労働力を結びつけ、独自性のある財を供給し、経済活動のみならず文化の形成者として、地場産業は地域の発展に大きな役割を果たしてきました。地場産業は、伝統的（歴史的）存在であるところから過去のものとして捉えられがちですが、これを地域資源として再認識し、「地域らしさ」を生かした内発的発展の方策を考えてみませんか。



板谷 雄二 経営科学特論 I・II

システム科学の手法を様々な分野に適用しましょう。例えば、社会システムへの適用では、社会システムが複雑であることから、モデル化が重要になります。モデル化には様々な手法があり、それらを改良したり、新たな手法を開発したりします。e-Learning をはじめとするコンピュータを用いた教材についても、システム科学の手法を適用して開発することができます。

■ 修業年限・入学定員等

	博士前期課程	博士後期課程
修業年限	2年	3年
入学定員	20名(収容定員40名)	3名(収容定員9名)
入学時期	4月(春季)、9月(秋季)	4月(春季)、9月(秋季)

■ 入学試験

	区 分		博士前期課程	博士後期課程
4月(春季) 入学	I期	一般	10月	2月
	II期	外国人留学生	2月	
	特別選抜	社会人	別途設定(11月~3月)	
9月(秋季) 入学	I期	一般	6月	6月
	II期	外国人留学生	8月	
	特別選抜	社会人	別途設定(5月~8月)	

■ 修了の要件

● 博士前期課程

本研究科の博士前期課程に2年以上在学し、講義科目・演習科目併せて30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受け、学位論文の審査及び最終試験に合格した者には、修士(情報管理学)の学位が授与されます。

● 博士後期課程

本研究科の博士後期課程に3年以上在学し、授業科目(論文指導I・II・III)の12単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受け、学位論文の審査及び最終試験に合格した者には、博士(情報管理学)の学位が授与されます。

■ 授業時間割

本研究科の教育研究指導は、昼夜にわたって実施し、土曜日の開講も含め、社会人の就学にも配慮した時間割の編成を実施します。なお、研究指導を受ける日及び授業科目の受講等の履修方法については、指導教員と相談の上、決めることとします。

■ 教職課程

● 高等学校教諭専修免許状「商業」・「情報」の取得

高等学校教諭一種免許状「商業」・「情報」を有する方は、所定の単位を修得すれば、同教科の高等学校教諭専修免許状を取得することができます。

■ 診療費補助制度

本学の附属病院等(附属病院、附属村上記念病院、PDI岐阜歯科診療所)における診療費の自己負担金を補助します。(保険診療—全額、自費診療等—半額)

■ 研究支援制度

● ティーチングアシスタント(過去実績 24名)

在学中に、教育活動の補助業務を行う者として委託が決定した場合、実績に基づき給与を支給します。

● リサーチアシスタント(過去実績 10名)

在学中に、本学が行う研究プロジェクトに必要な補助業務を行う研究補助者として委嘱が決定した場合、実績に基づき給与を支給します。

● ポストドクター(過去実績 5名)

大学院博士後期課程修了者等(委嘱する初年度の4月1日現在35歳未満の者)で、本学が行う研究プロジェクトにおいて一定の職務を分担して従事する者として委嘱が決定した場合、月額給与を支給します。

就職

～修了生の声～

— 研究の先にある それぞれの道 —

ファム チュン タイン

2009年博士前期課程修了
[エースコック(株)海外事業部]

■大学院で…

専攻は人的資源管理です。専門科目はもちろんのこと、経営組織特論、中小企業特論とベンチャー企業特論など、仕事をやるようになって本当に役立つ科目を学ぶことができました。修士論文は「ベトナムにおける人的資源管理—ハノイの日系企業と現地企業における比較研究—」で、インタビューや質問紙調査を行いました。

■現在は…

エースコック(株)の海外事業部で働いています。エースコックはベトナムで事業を展開しており、エースコック・ベトナム社はベトナム No.1 の即席麺メーカーと評価されています。

大学院のときの口頭発表会や最終試験を乗り越えたことが自信につながり、日本とシンガポール、インドネシア、ベトナムなどを飛び回る仕事をこなしています。

楳谷 清美

2002年博士前期課程修了
[楳谷税理士事務所]

■大学院で…

専攻は会計学です。専攻科目は勿論のこと、専攻科目以外の科目も含めて、経営学を全般的に学ぶことができました。特に、専攻の会計学では、「固定資産の減損会計」をテーマに修士論文を書き、我が国の会計基準と国際的な会計基準との調和の必要性を学びました。

■現在は…

現在の仕事は税理士業なので、専攻の会計学に限らず、他の科目も含めて深く関わりがあります。日々の主業務の例として、事業者の財務諸表の作成がありますが、その財務諸表を完成させる過程で、従来は機械的かつテクニカルな面に頼りながら作成していました。

しかし、大学院で会計学を学んでからは、会計学の根本的な理論を思い出しでは系統立てて理解をしてから、納得して結論づけ作成するようになりました。

矢守 恭子

2000年博士後期課程修了
[朝日大学経営学部教員]

■大学院で…

大学院では情報通信全般について学びました。特に、インターネットの仕組みや音声や画像のデジタル化などを学び、テレビ会議システムやそのためのネットワークを構築しました。

■現在は…

朝日大学経営学部の准教授となり、自分が学んできた技術や知識を後輩に教えています。また、通信サービスの料金や仕組みに関する研究を続けています。この研究には、NTT など多くの企業や大学が参加し、日々、新しい技術開発を行っています。開発された成果は、製品の中に組み込まれたり、サービスの一部として提供されています。

種田 智哲

2007年博士後期課程修了
[㈱ソフトピアジャパン]

■大学院で…

博士後期課程では、情報ネットワーク特殊研究を専攻しました。医療情報ネットワークをより使いやすくするため、医療従事者の情報ネットワークに関する知識やスキルの習熟度に依存せず、医療情報を安全に伝送するシステムの研究を行いました。

■現在は…

ソフトピアジャパンは岐阜県の IT 拠点として位置付けられています。その中で県事業のスマートフォンプロジェクトの推進を担当しています。

スマートフォンプロジェクトでは、大学院での研究で培った情報ネットワークに関する知識や技術を活かし、iPhone, Android, Windows-Phone といったモバイル端末の県内活用やアプリケーション開発の支援を行っています。

【主な就職先】

■博士前期課程

税理士事務所・会計事務所
衆議院議員選挙事務所
翻訳事務所
行政書士・社会保険労務士事務所
岐阜県庁 他官公庁
公立・私立学校教員（大学、高等学校等）
朝日大学職員
(情報・通信)
日本電話施設(株)
シーキューブ(株)
(ソフトウェア開発)
(株)EMD
(株)マックスマウス
(株)デジタルアソシエイト

(コンサルタント)
(株)構造化知識研究所
G.A. コンサルタンツ(株)
(製造・販売)
(株)高津製作所
(株)ティムス
(株)ダイシン
矢崎総業(株)
(株)UNEMOTO
ジャパンライフ(株)
岐セン(株)
人形の松井
(陶磁器卸)
(株)ミノルトレイド
(食料品製造・販売)
エースコック(株)

(医療機関)
太田病院
松波総合病院
(アパレル)
(株)ジョイフル
(物流)
(株)伸和
etc.

■博士後期課程

(㈱)岐阜県産業経済振興センター
(㈱)ソフトピアジャパン
岐阜県立岐阜商業高等学校教員
関中央病院
朝日大学教員
etc.



Access Map



交通機関

- JR東海道本線「穂積駅」下車、スクールバス「朝日大学」行約5分又は徒歩約20分
- 新幹線「岐阜羽島駅」下車、車で約20分
- 名神・岐阜羽島I.C.から、車で約20分、又は名神・大垣I.C.から約30分
(国道21号線、岐阜県庁から西へ約5分)



2009年4月1日から2016年3月31日までの7年間、朝日大学は、日本高等教育評価機構が定める大学評価基準を満たしていると認定されました。



ASAHI UNIV.

〒501-0296 岐阜県瑞穂市穂積1851

TEL. 058-329-1077 (ダイヤルイン) FAX. 058-329-1253

URL. <http://ims-web.asahi-u.ac.jp/> (経営学研究科ホームページ)